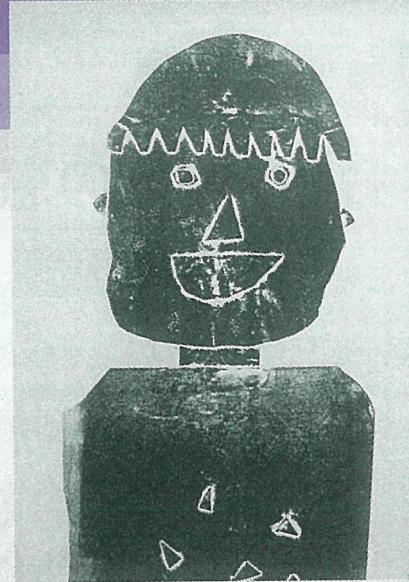


えな



「ともだちのかお」
おさしま二葉こども園 年長 加藤 譲一

教育長室での会話



—「今、お時間よろしいですか。教育長さん、いくつか伺いたいことがありますのですが。」

—「お、今ならいいですよ。座って話そうか。」

1 教科の特性

理科の学習で行うスケッチの話になった。

同じ絵を描くにも、理科と美術では全然違う。理科のスケッチはあくまで記録だから、目的とするものの形を正確に書く必要がある。ありのままを細部までよく観察して、そのままそっくりに描かないといかん。だから、線はすべてつなげるようにして、影を塗りつぶしたりせずに、濃淡は点描で丁寧に描くように教える。美術の絵は、デッサンっていうかな、その人の考え方や捉え方、表現の仕方があって、誰もが同じ絵にはならない。自分を表現するのが美術だし、特徴をとらえ観察して分かった事実を正確に伝えるのが理科。そこが違う。理科のスケッチを続けると、子どもはよく見る力がつく。

2 主体性

「ふるさとを愛し、学び続ける人を育てる」恵那の教育では、「主体性・社会性・郷土愛」を付けたい力としている。特に「主体性」について教育長さんは語る。

—「自主性」という言葉がある。「主体性」という言葉と比べてみると、どちらも自分の判断で行動するといった部分では共通している。「自主性」は自分の行うべき課題や取るべき行動が分かっている時に、他から言われる前に自分から行動するということ。例えば、与えられた複数の課題から自分で1つを選んで興味関心をもって取り組むのは「自主性」の範疇。私たちが目指すのはそうではなく「主体性」なんやね。課題から自分で見つけ、課題にたどり着くための方法も自分で決めなければならないといったように、必ず自己責任が伴うのが主体性。やることがはっきりしない場面でも、自分で考え、判断し、行動する力は、これから社会に対応して生きていくために不可欠。だから

恵那市副教育長 西尾 朋子

教師は、ティーチングからコーチングへ指導観を転換する必要がある。

3 コミュニティ・スクール

「地域とともにある学校」。取組が進んできました。—そうやね。進んできたね。恵那市はずっと前から、他市にないものを活かすこと大切にしてきた。豊かな自然や文化が恵那市の魅力だと大勢の人が言う。そんな恵那に根付く地域素材に、教育では早い時期から目を向けてきた。まずは「開かれた学校」、地域人材の活用を行った。子ども達の学力と社会性は、地域が学校教育を担う当事者となることで一層伸ばせるに違いない。教科書で学ぶだけでは薄っぺらでも、多様な体験を加えれば、子どもにとって分厚い知識、深い理解につながるはずだ。コミュニティ・スクールをいち早く手がけたのも、地域の力を学校教育に取り入れ、ともに知恵を出し合うことで子ども達の豊かな成長が促せると考えたからである。

4 ICT

恵那では早い時期からICTインフラが整備され、教育の情報化が進み、タブレット活用が当たり前になつた。

—授業の内容やねらいによって、しっかり教える授業もあるし、子どもに任せる授業もある。タブレットを使う授業も使わない授業もある。チョークを握る教師と、鉛筆を持ちノートに向かう子どもを否定したわけではない。大事なのは確かな授業の構想があるかどうかである。効果的にタブレットを活用してほしい。

恵那市はここ10年の間に、こども園を作り、「あいさつ、英語と読書、特色ある活動」を柱として幼児教育を進めてきました。また、教育の情報化を進め、ICTを圧倒的なスピード感をもって取り入れてきました。また、少子化が進む中で子ども達に十分な教育環境を整えるための方策を工夫してきました。

「これまで」と「これから」。恵那市の教育に携わってみえた諸先輩の志を受け継ぎ、子ども達の成長につながる施策を行っていきたいと考えています。



令和3年度の恵那市のICT教育

恵那市教育研究所

今年度、各学校での意識的なICTを活用した授業実践の積み重ねにより、先生方の効果的な活用技能が飛躍的に伸びてきました。

ICTを活用することで、従来型授業では伝わりにくかったことを明確に伝えられるようにしたり、児童生徒の学習状況を机間巡回でなんとなく把握していたことを確実に把握したり、児童生徒が追究したことを正確に共有して児童生徒が主体的に学ぶ授業を組み立てたりする授業が増えてきました。

定着状況もデータとして効率的につかむこともできるので、次時の授業改善に役立てるることができます。

1 ICTを活用した授業改善の状況と来年度に向けて

令和3年度のICTを有効活用した授業評価A・Bの目標達成値を70%に設定しました。小学校135名・中学校107名、合計242名の令和3年度の結果は下のグラフ1・2の通りです。

小学校が61%（令和3年度スタート時45%）、**中学校が69%**（令和3年度スタート時51%）でした。

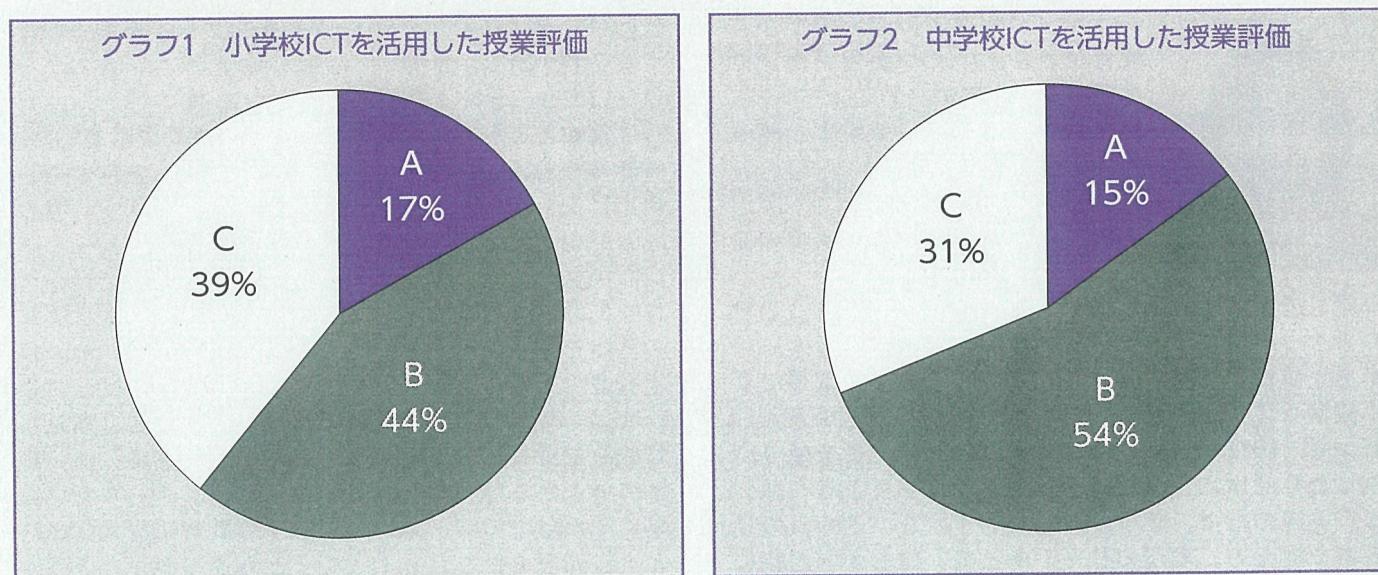


表1 年齢別授業者のICTを活用した授業評価

(A…授業効果大 B…効果がある C…効果なし)

R3.12現在

先生が教える道具としては当たり前に活用できるようになりました。ICTを活用した授業で目指すのは、児童生徒が分かりやすい情報を発信して交流し合い、自分に必要な情報を活用して学び合う授業です。

つまり、恵那市の教育で目指している児童生徒の主体的な学びのある授業をつくることにつながります。

2 Qubenaの活用状況と来年度に向けて

Qubena導入の目的は次の二点です。

- 1、恵那市の児童生徒は家庭学習時間が少なく、先生から与えられた宿題しかしない傾向があるので、Qubenaを使って自ら学べる環境をつくる。
- 2、住んでいる場所や家庭環境によって塾に行けない児童生徒も塾へ行っていることに近いAIを活用した個別に最適化されたドリル学習ができる環境をつくる。

来年度は、個の学力の確実な定着のための家庭学習の取組についても各学校で実践を進めていくください。効果的な取組を共有し、広めていけたらと思っています。

ICTを有効活用した授業イメージ

ICTを活用しないという選択はもうない。それはデメリットよりメリットが勝るからだ。

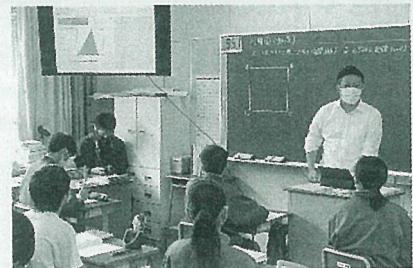
導入

先生の教える道具として活用

大型ディスプレイの活用

- 前時とつなぐために活用
- 児童生徒の学習意欲を高めるために活用
- 本時に使う知識を伝えるために活用

研究内容1 効果のある導入



展開

ロイロノート

- 個々の追究状況を把握
 - ・3分毎など短時間で提出させ、状況を確認。
- 児童生徒への支援
 - ・抽出児童生徒のみが見られる仲間の意見やヒントテキストを送信

大型ディスプレイ

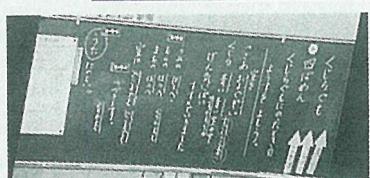
- 小集団で集約された情報を整理して可視化

研究内容6 授業を深める方法

深める発問

まとめ

- 本時の授業を映像で残す
- 児童生徒の理解度をデータで把握
- 次時の予告



児童生徒が学び合う道具として活用

研究内容2 学習状況の効果的な把握

ロイロノート

- 個々の追究状況を把握
 - ・3分毎など短時間で提出させ、状況を確認。

児童生徒への支援

- ・抽出児童生徒のみが見られる仲間の意見やヒントテキストを送信



児童生徒のICT端末の活用

個人追究

- 自分の考え(情報)をつくる
- 自分の考え(情報)を整理
- 自分の考え(情報)を配信
 - ・シンキングツール
 - ・ポジショニング
 - ・静止画
 - ・動画

研究内容4 ツールの効果的な活用



ロイロノート

小集団の追究

- 個々の情報を効率的・効果的に交流
- 個々の情報を集約化
 - ・端末で情報を確認し合って、全員が情報配信をする。自らが必要な情報を得られるようにする。



研究内容②全体

- 集約化された情報を共有する。
 - ・話し合い



- 共有された情報が確かなものであることを確認



児童生徒のICT端末の活用

- まとめ・習熟



研究内容7

- 効果的な授業のまとめ方と定着状況の把握



令和3年度 恵那市教育委員会 教育研究推進校の

令和元・2・3年度

恵那市教育委員会指定 教育研究推進校

岩邑中学校

令和3年10月13日(水)

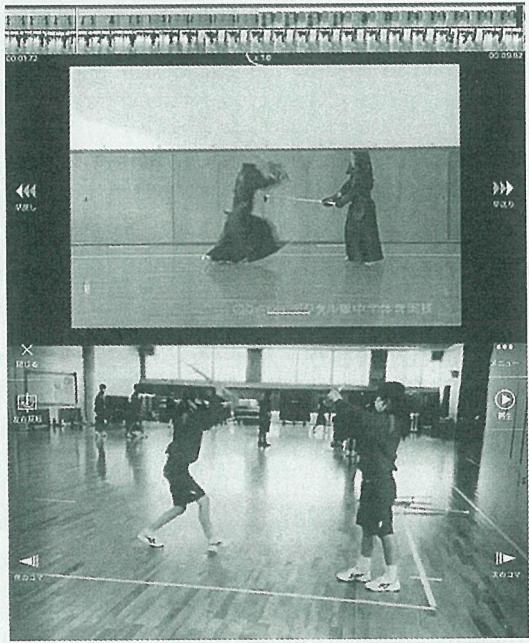
◇研究主題

「わかった」「できた」を生み出す協働学習の在り方
◇研究内容

1. 「生徒が主体的に考え解決できる」ための単元構想と指導方法の工夫
2. 深まりのある協働学習の在り方

◇研究の成果

- ・ 単元の中で、本時の学習活動の位置付けを明確にしたことで、活動を通して課題に迫ろうとする姿が増えました。
- ・ 意図的に「疑問や課題をもつ場や仲間と学び合いながら表現する場（本校校内名称『アクティベーションタイム』）」を位置付けることで、仲間との思考の比較や関連性を見いだすことができ、学びを広げ深めることができました。
- ・ I C T 機器を活用することにより、思考のもととなる根拠を示しながら意見交流ができるようになりました。また、思考を共有しながら、学習課題の達成に向けて活動することができるようになりました。



《体育科iPadアプリ「ウゴトル」を活用した学び》

◇研究の課題

- ・ 教科の特性に応じたアクティベーションタイムの在り方や、授業の中での位置づけについて試行を続けていく必要があります。
- ・ 教科の本質に迫るために I C T 機器の活用となるよう、工夫・改善を進める必要があります。

令和元・2・3年度

恵那市教育委員会指定 教育研究推進校

長島小学校

令和3年10月20日(水)

◇研究主題

表現することを楽しみながら、主体的に学び合う子の育成～I C Tの有効活用を通して～

教科の見方・考え方を働かせることで、一人一人が問題を解決する。お互いの考えを話し合う中で学びを深める。そんな学び合いのある授業を、 I C T の活用を通して目指しました。

【第1学年算数「ながさくらべとひろさくらべ】

児童は広さ比べの仕方を写真でとり、写真を示しながら、広さの比べ方を発表しました。お互いの比べ方を、写真で見比べることで、それぞれの違いや共通点に気付き、広さの比べ方について学びを深めました。



【第3学年国語「はんで意見をまとめよう】

児童は自分たちの話し合いの様子を、ボイスメモで録音しました。ボイスメモを聴きながら、話し合いの様子を具体的に評価し合う学び合いができました。



【第4学年理科「とじこめた空気と水】

予想の交流で、児童は自分の予想をモニターに示して、ポインターで指しながら説明しました。教師は発言内容を分類整理して板書に位置付けることで、調べる視点が明確になるように学び合いを導きました。



【第6学年社会「明治の国づくりを進めた人々】

ロイロノートを活用して、発表者は資料を示しながら自分の考えを説明しました。授業者は、提出されたノートから学習状況を把握して、網羅的かつ段階的に理解が深まるように学び合いを組み立てました。



見方・考え方の明確化は個人追究における考え方作りを保障し、 I C T 活用は学び合いにおける児童の相互理解を促進することにつながりました。今後は、授業中の学習状況を見届けるための有効な I C T の活用方法を、さらに工夫していきたいです。

令和元・2・3年度

東濃地区教育推進協議会 研究発表校

恵那西中学校

令和3年11月30日(火)

令和元・2・3年度

恵那市教育委員会指定 教育研究推進校

恵那北小学校

令和3年11月16日(火)

◇研究主題

「正確に理解し、適切に表現できる子を目指して」

◇研究内容

- 確かな読み取りのための単元の工夫

- ①キーワードを活用した学習
- ②学習の目的意識
- ③学習活動の工夫

- 考え方を仲間に伝える手立ての工夫

- ・低学年：指示棒（根拠）
- ・中学年：少人数活動
- ・高学年：児童自ら深める活動



◇研究の成果

- 文末表現等のキーワードから、筆者の主張に迫ることができるようにになった。

→R3全国学力調査（読むこと領域）

全国平均+11.2ポイント

- 文の書き出し等から筆者の文章構成を学び、自分の文章に生かせるようになった。

→R3全国学力調査（書くこと領域）

全国平均+7ポイント

- キーワードに着目させ、終末でキーワードを用いたまとめを継続して行うことで、条件にのっとって書く力を持つことができた。

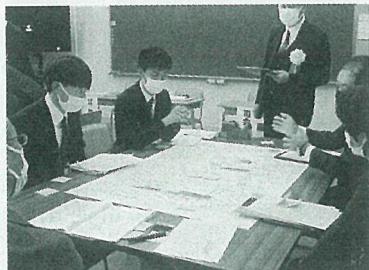
→R3全国学力調査（記述式問題）

全国平均+9.8ポイント

- 教師はファシリテーターに徹し、児童主体で授業を進めることができた。

- 全職員で互いの授業を見合いながら授業づくりを行ってきたことで、単元の出口を見通した計画の立て方や学習の定着の見届け方など、同一歩調で研究を進めることができた。

- 当日の分科会はKJ法を用いて行ったが、どの分科会も参加された先生方が意見を出し合いながら深め合うことができた。



◇研究主題

願いや根拠を基に、自分の考えを発信し続ける生徒の育成

- 当日の授業について

- (1)研究内容1「願いや見通しをもって歩み続けることができる単元・題材指導」の具現に向けて

生徒の実態分析の中で、生徒が苦手なことに対する要因分析を行うことで、単元を通して目の前の生徒にどのような力を付けるのかを明らかにした指導案を作成することができました。

- (2)研究内容2「生徒が発信したくなる単位時間の指導・支援」の具現に向けて

導入・追究・終末のそれぞれの段階で下記に示すような工夫を行うことができました。

- (1)導入の工夫

保健体育科では、『バレーボール』の単元で前時までのプレーの様子を動画で見せ、課題を焦点化する



ことで「本時できるようになりたいこと」を明らかにして、活動することができました。また、特別支援学級では『コースターズづくり』の生活単元の授業で、小学校の時にお世話になった先生にプレゼントするという目標を掲げることで、生徒の意欲を引き出すことができました。

- (2)追究の工夫

英語科では、3回の『small talk』の時間を設けることで、相手に伝わる表現を生徒自身で追究する姿があ



りました。国語科では、前時の場面と比較することで、本時の場面が作品全体にどのような効果を与えるのかと考えを深めることができました。

- (3)終末の工夫

どの教科でも、『学びの轍』という単元の振り返りカードを使い、単位時間の学習内容だけでなく、学びの深まりや仲間と共に学んだことで得られたことを振り返るようにしました。家庭科の『災害への対策』の授業では、「仲間と発信し合ったことで『安全性』と『快適に暮らす』ことのバランスが大切だと分かった。家族が快適に過ごせる住まいにしていきたい。」と振り返る生徒がいました。

1時間の目標	学習内容	学習の振り返り	○学び合い	◎問題力
○各自で家族代 言について安全に はりあう方法 を考える。 ○自分たちの意見 を発信する。 ○自分たちの意見 を発信する。	○災害への対策 ○安全にはりあう 方法 ○自分たちの意見 を発信する。	○安全にはりあう方法を考慮して、いつでも家族と 連絡する ○自分たちの意見を 発信する。	○○	問題 内でもうひとと見合 てみた。他の人の意見 を参考して、自分たちの意見を改めて見直す。

2 成果 (○) と課題 (△)

- 「発信」というキーワードを基に、『学びの轍』を使いながら主体的・協働的に学び、考えを広げる生徒が増えました。

- △発信を通して、さらに考えを「深める」姿を目指していきます。



『仲間とともに感じよう!楽しもう!つくりだそう!』

～身近な自然の中で～



こども園紹介

やまびここども園

やまびここども園は木曽川のほとりにあり、目の前に笠置山を仰ぐ自然豊かな園です。恵那市街からも近く、自然豊かな環境を魅力に感じて地域外からも園児が集まっています。

設立当初から、自然との共生の大切さや、たくましく生きる力を育む保育をしてきました。そのような伝統を引き継ぎ身近な自然を活かして、保育者や友だちと様々な体験を通して主体的に楽しむことが出来るよう取り組んでいます。

1. 身近な自然とのかかわり

天気の良い日は、積極的に散歩に出かけています。散歩コースも多彩で、春にはよもぎ摘み・夏には川遊びやビオトープ・秋にはイナゴとり・冬には田んぼで氷見つけなど四季折々の自然の魅力を子どもたちに伝えています。



イナゴとったよ!



園庭の小川でザリガニ釣り

散歩で捕まえてきた、生き物はホールに展示し、観察しながら飼育しています。生き物に触れることで、愛情をもって世話をすることや命の大切さも学んでいます。

散歩の際に“ネイチャーゲーム”を取り入れ、手作りの植物図鑑を持ち歩き、気になった植物を調べ、五感を使えるキーワードのbingoカードを活用し、「触る」「匂いをかぐ」など自然物への関心が高まるように工夫しています。散歩を通して地域を知ることや体力作りにも繋がっています。

また、園庭の畠では、季節の野菜を育て生長を楽しみに世話をしたり、給食室で収穫物を調理してもらい味わったりもしています。

2. 身体を使った遊び

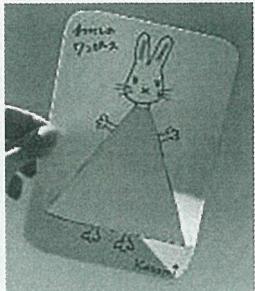
子どもたちは外遊びが大好きです。園庭では、砂場や三輪車、鬼ごっこなどの集団遊びや縄跳びなどの運動遊び、様々な遊びを楽しんでいます。その中で自分の好きな遊びを見つけて、クラスに囚われずに異年齢で遊びます。遊びの中で、年上の子に憧れの気持ちを

持って真似する姿や、年下の子を気遣い世話をする姿もあり、人とのかかわりの中で気持ちも育っています。

広範囲から通園してくるため車中心の生活で、家庭ではなかなか身体を使った遊びを十分に行うことが困難になってきています。園では子どもが自主的に遊びを広げられるように、人的・物的環境を整える努力をしています。

3. 地域との繋がり

近くの家の畠をお借りしたサツマイモ栽培や、収穫させていただいたタケノコを使った朴葉寿司作り、園庭の小川で地域の方とのますつかみなど、身近な方々に見守られ、地域の園として大切にしています。



「私のワンピース!
空模様の素敵な
ブルーのワンピース」

コロナ禍ですが、感染予防対策を施し、年長親子陶芸教室やボルダリング体験を地域の方の協力で行うことが出来ました。今年はオリンピックの事前キャンプでポーランドのカヌーチームが笠置峡に訪れたことで、ひまわりプロジェクトに参加し、運動会にカヌー競技を取り入れました。カヌー体験は、残念ながら台風のため中止となりましたが、地域の良さを知り郷土愛に繋がる体験を幼児期からさせていただけるのも、地域の方々の協力のお陰と日々感謝しています。



親子陶芸教室



ボルダリング体験

今年度から医療ケア児の受け入れも始まり、地域の園としてだけでなく、自然豊かな環境の中、子ども一人一人が自己発揮して園生活を楽しめるよう、保育者も日々の保育を工夫していくたいと思います。



木曽川まで散歩

先輩方への恩返し

岩邑中学校 校長 丸山 成之



恵那市で生まれ育った私が学んだ小・中学校は統合し、もう校舎はありません。母校に勤めることはできませんでしたが、私がこうして地元で働かせていただいているのは、当時小・中学校でご指導いただいた大先輩の先生方のおかげと言っても過言ではありません。

恥ずかしいことですが、小学校の頃の私はお調子者でした。ふざけて写っている写真が多く残っており、担当された先生方からしてみれば、面倒な子どもだったことでしょう。

そんな私が教員になろうと考えるようになったのは、中学校の先生方の影響です。多くの先生方が親になって指導してくださいり、楽しい学校生活を送ることができました。

社会のM先生：3年時の担任でサッカー部顧問、お世話になりました。普段は笑顔で、授業は雑学も交えて進み、楽しくできまし

た。年に数回、怒ると怖かったです。英語のK先生：陸上や駅伝の担当で、東濃大会や県大会など引率し、面倒をみてもらいました。ほめて伸ばす、その気にさせるのが上手でやさしい先生でした。

養教のW先生：少し怖い。ちょっとしたケガだと「そんなことで来るな」と言われました。駅伝練習はカブで追走するという噂も…。いろんな意味で鍛えられました。

体育のT先生：特に影響が大きく、私がもともと体育好きだったことに加えて、専門的な知識をもとに丁寧に指導していただいたおかげで技能が伸び、上達する喜びを味わうことができました。体育の教員を目指すきっかけとなった先生です。

教員人生も終盤を迎え、恵那市勤務は通算21年になります。先輩方にどれだけ恩返しができているかはわかりませんが、最後まで恵那市のためにやり切ろうと考えています。

研究所研修の実施報告

令和3年度「恵那市教育実践研究論文」審査結果

★新人6年目まで

◆優秀賞【一般の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
★明智小	林 誠悟	公民としての資質・能力の基礎を育む社会科學習の創造 ～ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して～	社会
恵那西中	安藤 亮	社会を生きる力をもった生徒の育成を目指して ～「願いや根拠をもって発信し続ける生徒の育成」の実践から～	理科
恵那西中	小栗 研	より良い動きを追い求め、仲間と共に迫り続ける生徒の育成 ～確かな技能を身に付け、「勝利に貢献したい」と願いをもって取り組めるバレーボールの実践～	保健体育
恵那西中	小森 亮	即興的に話したり書いたりすることができる力を育てる英語科学習指導 ～「Small Talk」「Sharing Time」「Retelling」の3つの活動を通して～	英語
恵那西中	水野 雄午	特別支援学級生徒の自己肯定感を育む支援の在り方 ～SWOT分析を基にしたカリキュラム・マネジメントを通して～	特別支援
明智中	原田 将伍	「動きをとらえる力」を高める生徒の育成 ～「現代的なリズムのダンス」の実践を通して～	保健体育

◆優秀賞【新人の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
★恵那北小	春木 亜美	正確に理解し、適切に表現できる子を目指して	国語
★長島小	山田 有花	主体的に追究し、仲間と共に学び合う算数科授業の創造 ～ICTの有効活用を通して～	算数
★大井小	中田 寛乃	小学校低学年におけるネット型ゲームの可能性と投げ動作の習得について ～ポンパーゲームの実践を通して～	保健体育
★恵那西中	小川 唯菜	仲間と協力して課題を達成する力をもった生徒の育成 ～理科の見方・考え方を働かせて学び合える学習集団育成を目指して～	理科

◆優良賞【一般の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
大井小	中西 善裕	「箱ひげ図」のよさを実感できる学習活動の創造 ～シミュレーションソフトの作成・利用を通して～	数学
明智小	明智小研究推進委員会	主体的な読み手を育てる国語科教育の在り方 ～「読みのて」を活用した物語文・説明文の指導を通して～	国語
恵那西中	遠藤 啓太	「対話的な学び」を促すとともに、それが「深い学び」につながることをめざした中学校社会地理的分野の単元・授業開発 ～「カリキュラムマネジメント」と「ICTの効果的な活用」を手掛かりにして～	社会
上矢作中	岩島 慶尚	思考力、判断力、表現力及び調整力を高めるためにICTを活用した課題解決学習の在り方	算数・数学

◆優良賞【新人の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
★長島小	岡田 実姫	対話を通じて合意形成を図る児童の育成 ～ICTの有効活用を通して～	国語
★長島小	鈴村 紗季	「読むこと」を通して想像することを楽しみ、「読み」を深める子の育成	国語

★長島小	柘植 啓佑	根拠を基に予想を立て、仲間と共に問題解決する児童の育成 ～ICTの有効活用を通して～	理科
★山岡小	酒井 瞬	ICT機器の特性を生かした指導 ～主体的に学び、考えを深める児童の育成を目指して～	算数
★山岡小	今井亜由美	地場産物・食事の重要性を学び、実践しようとする児童の育成 ～給食を生きた教材とし、ICTを活用した実践～	食育
★恵那西中	太田 沙耶	生活の営みに係る見方・考え方を働きかせ、生活につなげる家庭科 ～実践する喜びを味わえる授業づくりを目指して～	家庭科

◆奨励賞【一般の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
明智小	水野麻梨子	外国語活動・外国語・英語への円滑な接続を図る小学校外国語活動の展開 ～外国語活動におけるアルファベットの導入指導の実践～	英語
恵那西中	乾 祐樹	数学の良さを実感でき、主体的・対話的で深い学びの充実を図る授業の育成 ～数学的な見方・考え方を働きかせられる様子など、教師の出場を工夫した授業～	数学
恵那西中	土屋 智裕	『恵那西中コロナチャレンジ』を通して創り上げる行事 ～今年度の生徒会行事の実践から～	特別活動
恵那西中	加藤 孝明	仲間と学び合い、多面的・多角的に追究できる子の育成する社会科指導の在り方 ～社会とつながろうとする生徒をめざして～	社会

◆奨励賞【新人の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
★武並小	高橋 雅人	立場と理由を明確にして話し合う力を付けるための指導 ～ICTの効果的な活用を通して～	国語
★武並小	堀井 貴志	自身の願いの実現に向けて、主体的に学ぶ児童の育成を目指して ～第2学年「うごくうごくわたしのおもちゃ」の実践を通して～	生活
★大井小	有馬 直美	一人一人が深い学びを感じることができる算数の授業を目指して ～自ら考え、説明することを通して～	算数
★大井小	遠山いぶき	学級全員が意欲的に授業に向かい、できた喜びを実感できる授業をめざして ～小3算数「小数」学習を通して～	算数
★大井小	松本 采果	豊かな心と自ら学ぶ意欲を育てる図書室を目指して ～児童の主体的な図書室の学ぶ場づくりを通して～	図書館経営
★大井第二小	宇土 貴文	「事実」を捉え考察できる児童の育成 ～教材の工夫・ICTの活用を通して～	理科
★大井第二小	河合 真奈	根拠を明らかにし、主体的に学び合おうとする児童の育成 ～読むことを楽しむ国語科授業～	国語
★三郷小	中神 有美	自分の伝えたいことを考へながら話す姿を生み出す外国語科の授業 ～「話すこと」（やりとり）領域を中心として～	外国語
★三郷小	屋敷 光平	ICT機器を活用する活動を通して主体性を育む学級経営 ～授業作りと小集団への指導を通して～	学級経営
★岩村小	宮西 勇太	意思疎通を図り、互いに分かり合える学級経営 ～自立活動を核として～	特別支援
★山岡小	奥村 明子	教科の楽しさを味わい、仲間と共に主体的に学び、考えを深める授業を目指して ～第2学年「かけ算」「かけ算九九づくり」の授業実践を通じた児童の変容について～	算数
★上矢作小	藤掛 洋佑	意欲的にコミュニケーションを取りうとする児童の育成 ～ICT機器等教材教具の活用の工夫～	英語
★明智小	西尾 友里	見通しをもって主体的な学びを補助するICTの活用 ～デジタル教科書とキュビナを通して～	算数
★串原小	三輪 圭司	主体性を伸ばし、仲間と共に主体的に学ぶことができる授業改善 ～第5学年社会科「暮らしを支える工業生産」の実践を通して～	社会
★恵那西中	阿部 貴哉	「思考の視覚化」を手立てとした思考力・判断力・表現力等の育成 ～中学校社会科地理分野「北海道地方」の実践を例に～	社会
★恵那東中	河原 大智	仲間と共に主体的・対話的に学び合い、学びの深まりを実感できる外国語指導の在り方	英語
★恵那北中	安藤 雅裕	ICTを使ったコミュニケーション能力の育成を図る授業づくり	英語
★岩邑中	加藤 広輝	協働的な学習を通して、考えを広げ深められる生徒の育成 ～表現・鑑賞領域の実践から～	音楽
★岩邑中	平野 裕大	ICTを活用して深い学びができる生徒を目指して ～「わかった」「できた」を生み出す協働学習の在り方～	数学
★山岡中	平野有梨奈	生徒が思考することを通して、「もっとやってみたい」を育てる授業づくり ～「即興で」話す力をつける外国語の実践を通して～	英語
★明智中	岡田 和也	日常と学びをつなげた考えを表現できる生徒の育成	理科
★串原中	松下 幸汰	「主体的に技能を高める生徒の育成」 ～ICTを活用した器械運動の実践を通して～	保健体育
★串原中	橋爪 快	集団的な考え方の形成ができる生徒の育成 ～議論の充実を図る、中学校国語科での授業改善～	国語
★上矢作中	岩田 圭太	主体的に課題解決にむかう生徒の育成 ～ICTを活用した授業実践を通して～	保健体育

今年度の傾向

今年度は、一般的の部12点、新人の部36点、学校別では小学校26点、中学校22点、合計48点の応募がありました。いずれも、子どもたちに真正面から向き合う先生方の姿が伝わる論文ばかりでした。

主体的・対話的な児童生徒の育成を大切にしながら、授業の積み重ねによって児童生徒のつまずきを分析し、授業改善を行い実践が重ねられています。中には、児童生徒の学びの変容が手に取るようにわかる実践記録、日々の授業の中にすぐに生かせそうな実践や教材提案もありました。内容では、子どもたちの実態を数値化するなど確かな実態把握に基づくものや、ICTを取り扱った実践が多く、日々の授業の中でどのようにICTを有効活用するかという研究が目立ちました。

新人の部の論文も児童生徒の実態把握や、日々の授業の中で付けたい力を分析し、めざす姿を明確にし、仮説をもとに研究内容が組まれている論文が多くありました。また、児童生徒の変容を数値化、感想、評価などの具体的な資料から分析した説得力のある論文がありました。栄養教諭の先生による実践もあり、全校ぐるみで子どもたちを育てていただいていることを感じます。

多くの実践が校内研究会との関連で実践をまとめていたり、コロナ禍で工夫して取り組んだことが記録されたりしており、とてもよいと感じました。一方、専門教科で実践してみえる方は、研究の柱がしっかりしていて、これまでの実践を礎として研究を進めていることがよく分かりました。専門性を高めていくためには、専門教科の実践を積み重ねることも大切だと感じました。

岐阜県の求める教育像に「学び続ける教師」があります。教育研究実践論文への応募は、教師としての資質を高めるよい機会です。新人、中堅、ベテラン、それぞれのキャリアステージで課題を追究した記録として、実践を「教育実践研究論文」という形に積極的に残していくものです。